

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	府中保育園		
期間	令和 6年	8月～	10月

1. 活動のテーマ

<テーマ>

0歳児：手指遊び

<テーマの設定理由>

手指の動きは、感覚機能発達や脳の発達に良い影響を与えると考えられている。0歳児クラスの1年間は手指の発達に大切な時期と考えて取り入れていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

- ・ポットン落とし、布シフォン、マジックテープ剥がし、コロコロタワー等の手指遊び玩具を用意する。
- ・少人数ずつ、手指遊びを行い子どもの様子を観察する。(保育者の援助、声掛け無し)
- ・保育者の声掛け、援助を行い手指遊びを行う。
- ・コーナー遊びを遊びを設定し、子どもの様子を観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ポットン落とし、布シフォン、マジックテープ、コロコロタワー、製作（絵の具）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・二人ずつ、テーブル付き椅子に座りポットン落としをした。
- ・シフォンを結び、ペットボトルの中に入れて引っ張る遊びを設定した。
- ・マジックテープ剥がしは、床と壁面で設定して遊んだ。
- ・少人数でコロコロタワー、ブロック遊びをし子どもだけで遊ぶ様子を観察した。
- ・好きな遊びを遊び込めるように、3種類（コロコロタワー、シフォン引っ張り、マジックテープ剥がし）のコーナー遊びを全員で行った。
- ・高月齢児、低月齢児と人数を半分に分けてコーナー遊びを行い、保育者と一緒に遊んだり共感して楽しんだ。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ミルク缶の穴を大きくし、穴を見下ろして座れるようにした。1つ入る度に対面に座る保育者の方を見たり、「あ」と声を発していた。



- 全員で3種類のコーナ遊びをすると、保育者の膝に座っている子や何もせずに保育室を歩いてる子がいた。シフォンを踏んで滑る危険があった。



- 高月齢、低月齢の半分に分けてコロコロタワー、マジックテープ剥がし、ブロック遊びのコーナー遊びをした好きな遊びを選び、じっくりと遊ぶ子がいた。ブロック遊びでは、保育者と一緒に繋げ「出来たね」と声を掛けると嬉しそうにしていた。



5. クラスで話し合い、良かったこと、次につなげたいこと、課題

- ・ポットン落としでは、穴を広げて落ちやすくした事で投げていた子が最後まで取り組んでいた。
- ・保育者が声掛けをしたり、援助をしたり褒めていく事で子どもが楽しみながら取り組んでいた。
- ・人数を半分に分けてコーナー遊びを行うと、普段保育者の膝の上で甘えている子が遊び込めていた。
- ・ブロック遊びでは、手を添えて積み方を伝える事が出来た。
- ・コーナーごとに保育者がいる事で、子どもの眼差しに気付き共感出来た。

6. 次の活動

＜活動内容、新たに準備した素材・設定等＞

- ・新しい手指遊び：ビーズ引っ張り、無限シフォン引っ張り、マジックテープ剥がし（色や絵柄を付ける）
- ・準備した素材：ビーズ、ゴム、電車シール、小さなテーブル
- ・設定環境：少人数ずつ行う

＜活動中の子どもの姿等＞

- ・研修発表の際、職員から頂いた手指遊びの中から3種類を選んで遊ぶ事にした。
- ※風船に小麦粉を入れた物、ビーズクッション、テープ剥がし、ポットン落とし（スポンジボール、力を入れて落とす）等

「マジックテープ剥がし」

- ・木の実の方では今まで剥がす事が多かった子が、色の付いた画用紙の所に付けていた。
- ・電車の方では、線路の認識が不明だったのかもしれない。線路の上に電車をくっつけていた。



「ビーズ引っ張り」

- ・台紙に開けたゴムの穴の位置が離れていると、ゴムに指を入れていた。
→ゴムの穴を狭くすると、ビーズをつまんで引っ張っていた。
- ・一人ずつ行えるように小さなテーブルに取り付けて行くとじっくりと取り組む姿があった。



「シフォン引っ張り」

- ・シフォンを下では無く、後方に引っ張っていた。
- ・テッシュ等を上に引き出す動きはスムーズだが引っ張り続ける事が難しかった。

7. 振り返り

＜本活動によって得た保育者の気づき＞

- ・子どもの目線に合わせて行くと、ポットン落としが出来なかった子が出来るようになった。
- ・実際にやってみて、難しいと思われる動きが分かった。
- ・手指遊びをしつつ、体を動かして遊んでいる事が分かった。（膝を曲げる、座ったり、立ってやる等）
- ・発達に合わせた遊びを提供していく事が、意欲に繋がり、成功体験を得られる為に大切と考えた。